

得意なIT役立てたい

県立太田一高(常陸太田市栄町、鈴木清隆校長)は、生徒発案でIT分野の得意な生徒たちが他の生徒や学校運営などに力を貸す生徒による情報通信技術(ITCT)推進チームを発足させた。部活動ではなく、学校運営組織として位置付けられたことは全国的にも極めて珍しい。IT関連企業の支援を受けながら、幅広い活動が期待されている。

太田一高生が発案

きっかけは10月に、IT分野に興味・関心や高い能力を持つ生徒たちから学校に対し、「自分たちの力をぜひ他の生徒や学校運営にも役立ててほしい」という提案があり、生徒が活躍できる場として立ち上げることにになった。同推進チームは教務部や特別活動部など学校運営組織の中の情報部に所属し、自分たちが取り組みたいことや学校側からの依頼に応じて活動を展開していく。



ICT推進チームの生徒たちと学校、企業の代表らが出席して今後の活動方針などを話し合った＝常陸太田市栄町

チーム発 部活や学校運営支援へ

デジタルトランスフォーメーション(DX)の促進のほか、ITや情報リテラシー(読み解く力)を学ぶ機会創出、IT系部活動の立ち上げと活動支援などが想定されている。

同推進チームのメンバーで、同高付属中1年から同高2年までの計4人が先月中旬、鈴木校長やソフトウエア開発会社「アプリシエイト」(水戸市)の和田幸哉社長らと活動方針などを話し合った。学校の広報用の動画制作や太田一高の生徒同士の情報アプリづくりなどが提案された。

同推進チーム発足を提案した同高1年、木村斗耶さん(16)は「学生だからという制約を受けてできなかったことが、解決できるようならば最高」と意欲を示す。

和田社長は「高校を良くしたい」という熱い思いがあった。この試みが太田一高だけでなく、地域も一緒に盛り上がるって市の地域創生につながるれば」と生徒たちの可能性を感じた。

鈴木校長は「IT教育に力を入れていることもあり、生徒からの提案には感激した。自分たちで教え合い、将来的にウェブサイトを立ち上げたりするためにプログラムの勉強をする入り口になる可能性に期待している」と話した。

(飯田勉)